

カトレア

2018 Winter

110
平成30年

Cattleya

川内市医師会立市民病院

川内市医師会立市民病院 市民公開講座

主催 川内市医師会立市民病院 広報経営企画委員会

先手必勝 認知症予防
(アレがアレが...が増えてきたあなたへ)
作業療法士 橋口 久仁子
子育てにも使える言語聴覚士の3つのテクニク!
言語療法士 久保田 空

笑顔と生活を支えるリハビリテーション
〜リハビリからの役立つポイントアドバイス〜
転ばぬ先のロコモ体操
理学療法士 長嶺 英博

平成29年10月7日 第5回市民公開講座

CONTENTS

特集Ⅰ 新年のあいさつ
特集Ⅱ 市民公開講座
地域医療連携室だより
部署紹介 栄養管理部
新人職員紹介
NEWS
身体に優しい健康レシピ
リレーエッセイ

基本理念

私たちは、地域の中核病院として、急性期医療を推進し、安全で信頼される医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、信頼され満足される医療を目指します。
2. 質の高い急性期医療を推進し、高次救急医療の確立を目指します。
3. 地域の医療関係機関と連携し、地域社会に貢献します。
4. 職員が互いに尊重しあう職場作りをめざし、チーム医療の充実に努めます。

患者さんの権利

1. 良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 自分の病気について納得するまで十分な説明を受け、その上で検査や治療を選択すると共に医療機関を決定する権利があります。
3. 個人の情報は保護される権利があります。
4. 自分の診療内容について知る権利があります。

新年のご挨拶



病院長
石部 良平

皆様方、新年明けましておめでとうございませ

す。昨年は病院機能評価受審の決定に伴う準備が開始されたさなか、地域包括ケア病棟の増床に伴う病棟の再編成も行われ、職員の皆様方には大変にご苦労をおかけしました。おかげさまで病院の急性期としての機能の充実が肌で感じられています。ところが、この忙しさに追い打ちをかけるように12月になって個別指導と適時調査の大波が襲ってきました。まずもって短期間で指導への対応を実施して頂いた関係各位の努力に感謝申し上げます。

市民病院にとりまして7対1看護体制の維持、またDPC係数の安定化は急性期の患者さんを預かる病院としては必須の課題です。そのためにも多少の無理を承知で、地域包括ケア病棟を増床し病棟を再編した上で、看護必要度、在宅復帰率を堅持する必要性がありました。この点に関してはどうぞご理解の程をお願い致します。今後の厚労省の方針として在院日数の短縮とともに、在宅でのケアを重視することが第一に挙げられているようです。そのため在宅での看取りに関与する医療機関や、在宅での病勢が悪化した場合の後方支援を受け入れる医療機関などに対しては診療報酬を手厚くしていく

方針のようです。さらにチーム医療の構築にも重点が置かれており、医師の各種資格はもちろんのこと、コメディカルの専門性、例えば看護師であれば認定看護師の資格などがより重視される方向で動いているようです。さらにこれに加え栄養士、薬剤師、放射線技師、検査技師、臨床心理士、MSWなどが集まり1人の患者さんに対して論議を重ねることを重視してゆくという立場です。すなわちチーム全体を専門家集団として作り上げ、医師の独断によらない医療を推進してゆく意図のようです。チーム医療は当院でも推し進めているところであり、この流れから外れることなく万全の体制を整えてゆきたいと思っています。重ねて各職場における専門資格の取得に関しまして、とくに施設基準に係る場合、病院は積極的に応援するつもりです。どうぞ相談ください。

また当院としましては地域の後方支援病院として、在宅医療機関と連携してそのケアをスムーズに行つてゆく必要があります。それには地域医療連携室の役割がますます重要となつてくるでしょう。もともと当院の基本方針の中に会員の医療機関と協力しての地域医療の充実があります。常々私が表明している通り、当院はこの川薩医療圏の中で完結できる医療を目指しています。そのためには急性期医療機関との連携はもちろんのこと、回復期、慢性期医療機関との協力体制は欠かせません。来年度の診療報酬改定においては、急性期病院にとつての大切になる keyword として心疾患、特に心筋梗塞、脳卒中、癌などの診療とともに救急医療にも積極的にかかわってゆく病院ということが判明してきました。さらにこの流れとして、寝たきりをつくらないため急性期医療とともに開始されることが推奨されている各種リハビリテーション、また回復した後の在宅復帰

3月

- 3日 ちゅうりつが園ひな祭り
- 16日 ちゅうりつが園お別れ遠足
- 25日 ちゅうりつが園第23回卒園式
- 29日 防災訓練

2月

- 3日 ちゅうりつが園豆まき
- 8日 がん関連委員会研修会
「肺がん～疾患の理解と治療～について」
呼吸器内科医師 末次 隆行
- 9日 サービス向上研修会
「マナーとホスピタリティー」
廣野 健太先生
- 第3週 職場体験(川内中央中学校)

1月

- 4日 仕事始め式
- 8日 いぶすき菜の花マラソン参加
- 16日 感染対策研修会
「あなたの感染対策大丈夫?再確認しよう!」
感染管理者 中野 智子
- 27日 がん関連委員会研修会
「化学療法～血管外漏出、有害事象・grade評価～」
がん化学療法看護認定看護師 濱田 幸蔵

をあとおしするようなシステムを整えている病院に対しては診療報酬がますます手厚くなるようです。考えてみればこの流れは昔から当院が目指していた目標そのもので、当院の基本方針は間違っていないかったことの証明でもありません。診療報酬改定が行われても自信を持って、従来通り当院の路線を進んでゆけるのではないかと思います。ただし、このことを達成するためには以前から言われているようにマンパワーの確保が喫緊の課題です。これは鹿児島市などの県都とは比べるべくもない現実です。病院としては引き続きマンパワーの確保に全力を注いでゆく所存です。また当院のこの方針に関しては、地域住民の方々さらに当院の職員の方々にどれくらい周知され浸透しているか疑問です。今後は病院の経営管理会議などを通して広報を図り、協力をお願いしてゆく必要があります。

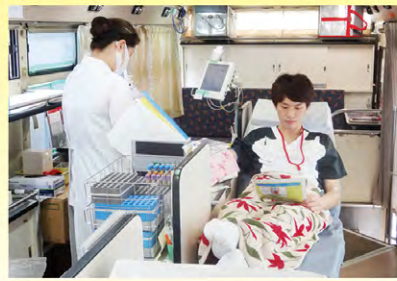
さて皆様方ご存知のように11月には保健所の立ち入り調査が行われました。職員の方々の日頃の努力のたまもので概ね良好な結果でした。ところが、まさにその当日には九州厚生局の個別指導、及び適時調査のダブル指導の連絡が入ってきたためにまたまた慌ただしいひと月となりましたことは記憶に新しいところです。12月15日に行われた指導は皆様方のおかげで、幸いにして中断にも陥らず無事に終わった(と思われる)ところではあります。職員の一人一人が多忙な中にも保険診療という大前提に思いを馳せて日頃の診療を行い、施設基準の堅持などにも真摯に取り組んでゆきたいものです。

さて病院機能評価受審が3月15、16日に決まりました。当院の受審も4回目になります。常に言われている通り、日頃の診療場面が試される時ではあります。やはりこの受審によって気づかされることは多いと

思います。結果はともかくとして、これを契機に自病院の立ち位置なり、足りない部分を見つめなおしてみたいかがでしょうか。少なくともせつかくの機会をただ受け身一辺倒に流してしまわないのもつたいないと思います。具体的には病院機能評価のサーベイヤーの方々に素朴な疑問をどしどしぶつけてみてはいかがでしょうか。Global standardは大切ですが、個々の病院ではそれぞれの事情もあり、最低限のことをやっている部分もある。この方法での代替はなぜいけないのかなどと現場の意見として物申してみたいかがでしょうか。何度も申しあげているように、病院としては病院機能評価にパスすることが最終の目的ではありません。最終的には患者さんのため、職員の皆様方のためということにつきます。その視点で機能評価に備えれば自ずととるべき道が見えてくることと思えます。機能評価のために現場がバタバタし、職員のためにも患者さんのためにならないこととなれば本末転倒です。サーベイヤーの仕事をこちらから評価してやるくらいに心に余裕をもつて臨みたいものです。

来年度は医療と介護の診療報酬同時改訂の年です。ただ、これは時が来れば必ず訪れることです。自分たちのまっとうな仕事を淡々とこなしていれば、何とか乗り切れるのではないかと自分に言い聞かせている今日この頃です。本年も大波小波が起ることもありましようが、平常心をもって自分たちの進むべき道を皆様方とともに肅々と歩んでゆくつもりです。そして着々と病院の体力をつけてゆき、地域医療のためにはしっかりと奉仕しましょう。本年も何卒よろしくお願い致します。

4月



- 3日 開院記念式典
- 3日 新人集合研修
- 初旬 CT装置更新
- 3日 ちゅうりっづ園入園式
- 17日 集団献血「愛の献血」
- 18日 第29回市民病院学術発表会

5月



- 15日 感染対策研修会
「意識と行動を変えよう！
種子衛星と个人防护具使用の徹底化」
感染管理者 中野 智子
- 19日 経営計画発表会
- 28日 ちゅうりっづ園春の遠足

6月



- 2・3日 新人職員宿泊研修
- 19日 倫理委員会研修会
「倫理的な感性を高めよう！」
鹿児島厚生連病院 福岡 伊豆美先生

変化の年



看護部長
久々湊 智予

2018年新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

2018年の干支は「戊戌(つちのえいぬ)」です。中国の古い思想の陰陽五行を取り入れると、それぞれの文字には意味があるとされます。その意味付けの考え方が五行です。木、火、土、金、水の5つが五行。十干や十二支のそれぞれに、木、火、土、金、水のどれかの性質を持たせているそうです。戊(つちのえ)は「土」の性質です。つちのえは「土の兄」とも書きますから、まさに土。一方、戌(いぬ)は何かと言うと、これもまた「土」の性質だそうです。2018年の戊戌という干支は、2つの「土」の組み合わせということになります。ちなみに、前年の2017年は、丁酉(ひのと)でした。これは、火と金の組み合わせでした。五行という考え方で見ると、「土」は「万物を育成し保護する性質」とあります。さらに、「四季の移り変わりの象徴」になります。五行はいろんなものに当てはめられてきました。その1つが季節。木は春、火は夏、金は秋、水は冬です。そして、残った「土」はそれぞれの季節の変わり目を表すことになってい

ます。2018年は、戊戌の年ですから、土の性質から変化する年です。

戊戌の年は、60年周期でやってきます。例えば、国立競技場を作ったのが1958年で約60年前、今は建て直しています。それから、今の天皇陛下が婚約したのも1958年。今は孫にあたる眞子様がちょうど婚約の時期。天皇の生前退位の話もあります。そして、その変化の仕方はどうでしょうか。今までの主役が変わると言うんでしょうか。仕組みが変わる、スポットライトが当たるところが変わっていく、というように捉えたいと思います。これまでのルールや慣習にこだわらないで、新しい動きが生まれる年だと思えます。

昨年5月「医療・介護にAI活用自民、首相に成長戦略を提言」という見出しが日本経済新聞に掲載されました。これからは、人口が減少する中でAI(人工知能)が診断やケアを考える時代がやってきます。野村総合研究所「NRI 未来年表2017〜2020」によれば2045年にはAI(人工知能)が人間の能力を追い抜くと。私たち看護職にとって残る看護は何かと真剣に考えていかなければならない時代がそう遠くない時期にやってくるのは確実です。そのためには、自分で考える力をつけることが必須だと思えます。2025年に向け地域の中核病院として必要とされる医療・看護は何かを模索しつつ、先を見据えた医療経営が必要であることを考えながら多くの課題に取り組んでいきたいと思っています。今年もよろしくお願いたします。

9月

8日 救急委員会研修会
【チーム医療における診療看護師の役割と地域救急医療への関わり】
長崎岩崎病院 綾山山由美先生

16日 ちゅうりっぷ園運動会
21日 川内大綱引き参加
29日 DCT委員会研修会
【医療者向け糖尿病勉強会】
看護師：堀田 彰子、理学療法士：久玉 圭祐

8月

第4週 職場体験(れいめい中学校)
22日 サービス向上委員会
ボランティア全体清掃

7月

1日 3階病棟再編
1日 ちゅうりっぷ園七夕まつり
7日 がん関連委員会研修会
【がん患者が体験している世界
～症状緩和に生かせる観点を考える～】
三重大学医学部付属病院 緩和ケアセンター

戌の風に乗って



事務部長
米山 光明

新春のお慶びを申し上げます。昨年度は、病院の大きな出来事に7月の病棟再編、色んな声が上がりました、一旦は断念の雰囲気にも。そして年末の九州厚生局の個別指導・適時調査、医事業務課の底力を見ました。この2大行事を何とかチーム市民病院で乗り越えられ今年のもも平穩に迎えることができました。改めて職員の方々に感謝申し上げます。

さて昨年は、新年早々、大相撲の稀勢の里が劇的優勝で19年ぶりに日本人横綱が誕生、そしてトランプ氏が大統領就任、残念ながら両氏期待に及ばず、また10月は衆議院解散で希望の党の旗印も消沈、森そば、加計そば問題を横目に政治も自民党の圧勝で元の鞘に戻った一年でありました。

病院の収支は、患者数横ばいながら国が求めている在院日数の短縮による回転率に起因し、昨年比増収もあり計画を上回る内容で職員皆さんのお陰で安定した一年でありました。

今年は、診療報酬の医療・介護同時改定の年です。年末の報道で改定率が診療報酬本体プラス0.55%と発表がありました。当院への影響度合いに気を揉む所で、地域の医療、

福祉が崩壊しないよう願うばかりです。地域医療構想も終盤を迎え核心にメスを入れ着地の様相ですが、地域中核病院として、地域を支え、医療を支え、患者を支える事を念頭に今年一年を過ごしていきたいと思えます。昨年の9月に職員満足度調査を一部外部に委託して実施致しました。その集計・分析結果を11月下旬の経営管理会議で委託機関から講評説明頂きました。色んな生の声を私を含めた管理者にも頂いておりました。職員の皆さんが働きやすい環境、力を発揮できる環境を築いて行けるよう率直に向き合って行きたいと考えております。

今年は、人生100年時代に向けて色んな取り組みが始まりそうですが、病院は、先ず3月に機能評価受審を控えております。機能評価受審は病院としての標準値を知ること、再確認することに意味があるように思います。当たり前のことを当たり前にできる。いつでも受審できる体制を維持することが必要です。更に診療報酬改定への対応も早め早めの必要があります。暮れに心配していた保育士の応募もあり、3月には保育所の厨房も完成します。経営計画BSC達成への追い込み、平成29年度を有終の美で飾る事が、平成30年度に大きく影響します。戌年を緊張感を持って気を引き締めてスタートしましょう。戌年は、事が色々ある年のようで、昨年と違った形で、騒乱が予想される世相のようです。期待と不安がありますが、棒に当たらないよう新しい風に乗って一年を素晴らしい年にできるように皆さんで協力して参りましょう。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

12月



- 第2週 職場体験 (川内南中学校)
- 9日 ちゅうりっぷ園第25回生活発表会
- 19日 クリスマスコンサート
- 26日 輸血療法研修会
「輸血用血液製剤の取扱い」
「輸血の実施について」
「輸血副作用」
鹿児島県赤十字血液センター 新留 和美先生
- 29日 仕事納め式

11月



- 1日 倫理委員会研修会
「本人の最善にむけた意志決定支援とは
～尊厳、人生の最期における医療の決定-アセスメントから-」
WITH医療福祉実践研究所 田村 里子先生
- 6日 薩摩川内市はんや祭り参加
- 8日 個人情報研修会
「医療機関における個人情報取扱いについて」
弁護士 岸本 圭市先生
- 9日 クリニカルバス大会
- 第2週 職場体験 (川内商工高校)
- 24日 経営計画中間発表会

10月



法士 久保田

- 6日 医療安全研修会
「医療メデイエーションについて」
南九州医療センター 東 幸代先生
- 7日 第5回市民公開講座
- 12日 第30回市民病院学術発表会
- 21日 ちゅうりっぷ園親子遠足
- 25日 感染対策研修会
「君は防げるか?!インフルエンザアウトブレイク
・2種感染症対応時の個人防護服の着脱演技」
杏林製薬株

SENDAI MEDICAL ASSOCIATION HOSPITAL

第5回 川内市医師会立市民病院 市民公開講座

**笑顔と生活を支える
リハビリテーション**

～リハビリからの役立つワンポイントアドバイス～

6

転ばぬ先のロコモ体操

総合リハビリテーション部
理学療法士

長嶺 英博

6

先手必勝 認知症予防

総合リハビリテーション部
作業療法士

橋口 久仁子

6

子育てにも使える
看聴覚失調者の
3つのチェック!

総合リハビリテーション部
理学療法士

久保田 史

2017年10月7日(土)

受付/13:00 開演/14:00

薩摩川内市国際交流センター
コンベンションホール

定員400名(先着順) 参加費無料

川内市医師会立市民病院 広報経営企画委員会

TEL: 0996-22-1111 FAX: 0996-22-0511 E-mail: info@sendaihp.jp http://www.sendaihp.jp

第5回市民公開講座

「笑顔と生活を支えるリハビリテーション」
～リハビリからの役立つワンポイントアドバイス～

10月7日(土)
薩摩川内市
国際交流センターにて



講演① 「転ばぬ先のロコモ体操」

総合リハビリテーション部次長 長嶺 英博
理学療法士

講演のポイント!!

- 〇ロコモシンドロームにならないために心掛けるべきことや目標とすべき運動量の理解
- 〇本当の意味でのロコモ体操の理解

1. リハビリテーションとは?
2. 予防的リハビリテーション
3. ロコモティブ・シンドローム (運動器症候群) とは?
4. 身体活動の基準と考え方
5. ロコモ体操について



講演② 「先手必勝 認知症予防」 (アレが、アレが…が増えてきたあなたへ)

総合リハビリテーション部主任 橋口 久仁子
作業療法士

今日のメニュー!!

- ・物忘れと認知症について
- ・認知障害チェック (自分自身、家族) の一例
- ・認知症予防のコツ

1. 物忘れと認知症
2. 認知症の治療について
3. 軽度認知障害テストに挑戦
4. 認知症予防はどうやって?
5. 認知症予防のコツ
6. なぜ、先手必勝?



講演③ 「子育てにも使える言語聴覚士の3つのテクニック！」

総合リハビリテーション部副主任
言語聴覚士

久保田 空

本日の内容!!

(学習、ことば、食事)

- ・ 能動的な学習と振り返りをサポートするテクニック
- ・ ことばの発達を促すマネするテクニック
- ・ 食事をサポートするテクニック

1. 子育ての力どっちが身に付く?
2. 学びが身に付くには・・・
幼児期～学童期
乳幼児期
離乳初期～幼児食
3. 食事に関する3つのテクニック



市民公開講座 栄養相談コーナーに参加して

栄養管理部 管理栄養士 藤崎 愛

私たち栄養管理部は昨年に引き続き、栄養相談コーナーを設けました。今回の市民公開講座の内容がリハビリであったため、栄養相談コーナーには【ロコモティブシンドローム予防の食事について】の掲示を行い、テーブルには栄養補助食品サンプル（エネルギー・たんぱく質強化ドリンク、減塩調味料、糖尿病患者用甘味料）、非常食のパンフレットを置き、いろいろな方に注目していただきました。当日は管理栄養士3名で合計16件の栄養相談を受けました。

栄養相談の内容は「夏バテによる食欲不振」「エネルギー過剰摂取による肥満」「高血圧について」などさまざまでした。皆さんで自分が普段食べている食事が自分に適した量なのかどうかということに疑問をもたれている方が多く、自分にあった食事量を表す簡単な指標があればいいのではないかと感じました。また、栄養補助食品に興味をもたれ、「自分は栄養補助食品を使用した方がいいのか」「どのように使用したらいいのか」などの質問がありました。

最近ではドラッグストアやスーパーなどで栄養補助食品を取り扱っているお店も増えてきており身近な食品となっているため、管理栄養士として正しい使用ができるように助言できたいと思います。今回の栄養相談コーナーでの反省を生かし来年度に繋げていこうと思います。ありがとうございました。





地域医療連携室だより vol.1

2017年7月より地域医療連携室が新メンバーでスタートいたしました。

地域医療連携室は、1999年に開設され、患者満足の向上と医療連携の充実を目指してきました。診療報酬改定や地域医療構想など環境に適応出来るように業務の拡大や、求められる役割も拡大しております。

今回は地域医療連携室の業務内容とスタッフ紹介をいたします。



● 地域医療連携室では ●

(1) 医療連携業務

予約・紹介患者の入退院・受診報告、データ管理、地域連携パスの統計業務など

(2) 患者サポートセンター

入院、外来患者、地域住民からの相談

入退院に関する事、経済的な問題、介護問題などに対して、内容に応じた担当者が対応出来るようにいたしております。

(3) がん相談支援窓口

平成22年12月に鹿児島県より「がん診療指定病院」(総合)の指定を受けました。「がん診療拠点病院」と連携を図り地域のがん診療に積極的に取り組んでいます。

(4) 病床運営 (ベッドコントロール)

院内の入退院患者の把握、調整

(5) PFM (Patient Flow Management)

予定入院患者の情報を入院前に把握し、問題解決に早期に着手すると同時に病床の管理を合理的に行う事などを目的とするシステムを構築すべく、取り組み始めました。

(6) 地域連携パス事務局

現在、計4つの地域連携パスが運用されています。

①川薩保健医療圏脳卒中地域連携パス

②川薩保健医療圏急性心筋梗塞地域連携パス

③川薩保健医療圏がん地域連携パス (事務局：済生会川内病院)

④川薩保健医療圏糖尿病地域連携パス (事務局：川薩保健所)

地域の医療機関との役割分担、連携の強化を推進していくために、地域連携パスの導入、及び運用を行っています。そのうち2つの地域連携パス(①、②)は、当院が事務局となっております。



自己紹介



(室長)
新里 拓郎

昨年4月より地域医療連携室長を拝命しました。地域包括ケアシステムの構築が急がれる中、当院がこの地域で求められる役割を改めて考えながら、地域の先生方、地域の患者様方との連携の構築を日々模索しているところです。各関連の方々との顔の見えるお付き合いをしながら、地域によってより良い医療連携が図れるように精進していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

7月より地域医療連携室へ配属され、副室長となりました。不慣れなことが多く、皆様にご迷惑をかけることが多い日々です。日々精進しながら看看連携・病病連携ができるようにしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



(副室長)
瀬戸口 久美子

MSW (医療相談員)



(副主任)
中蘭 陽介

入職して4年目になりました。外科と整形外科を担当しております。診療科に関する相談や問い合わせなどありましたら、いつでもご連絡ください。よろしくお願いいたします。



白澤 昌枝

呼吸器内科を担当しております。地域移行の難しさを感じることもありますが、患者様のニーズに沿った退院支援、地域連携を意識しながら、勉強させていただく毎日です。



大田 佳奈美

整形外科を担当しております。入職して1年半になりますが、微力ながら地域連携に貢献したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



畦地 綾香

平成29年2月に入職し、循環器内科を担当しております。患者様・ご家族のお気持ちに寄り添った退院支援が行えるよう日々努めてまいります。



川畑 慎吾

脳神経外科・神経内科を担当しております。微力ですが地域連携の一翼を担うことができたいと思っております。至らない点も多々ありますが地域連携がスムーズに行う事ができるように日々精進してまいります。よろしくお願いいたします。

PFM (連携室看護師)



今村 千佳子・長山 祥子・大磯 理恵

7月よりPFM看護師が3名配属されました。具体的には、患者情報収集と各種リスクのアセスメント、早期からの指導介入、必要に応じて他職種との連携を行い、患者様やご家族が安心して療養生活・退院後の生活を送れるように対応しています。また、訪問看護師やケアマネージャー、他施設と連携を図っています。

臨床心理士



町田 理香

患者様やご家族のストレスケア（体の回復にも影響する不安、落ち込み、いらなど気持ちを和らげる）を担当しております。よろしくお願いいたします。

事務



松尾 映美里・今村 麻衣・中赤 真美

さまざまな電話対応や統計業務、外来や入院の連絡票作成・発信、空床状況や診療案内の発信、地域連携バスの統計、介護保険書類の管理や請求作業などを行っております。よろしくお願いいたします。

予約



丸内 洋子・的場 尚子・児島 愛・山口 まどか

外来予約取得の窓口になっております。皆様が利用しやすいよう、日頃より努力を続けておりますが、ご希望の日時に沿えない場合もございます。ご理解・ご協力をお願いします。





部署紹介 栄養管理部

栄養管理部は平成29年度より厨房完全委託から一部委託となり、栄養管理・給食管理は全て病院スタッフの栄養士・管理栄養士で行う新体制へと変わりました。栄養管理部門7名（うち1名育児休暇中）、給食管理部門4名の計11名で日々業務に励んでいます。

厨房スタッフは平成28年度7月より厨房委託業者入れ替えとなり㈱アンフィが患者食の調理全般を行うようになりました。業者入れ替えにあたり、私たち栄養士も一から厨房運営に関して勉強させてもらいました。大きな不安もありましたが、院内の皆さんの協力をいただき食事提供がスタートしました。安全かつ安心できる食事提供が行えるように当初は栄養士も厨房へ入り、厨房業務に携わっていきました。あれから1年が経ち、厨房内も安定し食事提供が行えるようになり、食数が増えても動じることなく適時適温の食事提供ができています。今後も栄養士、厨房スタッフ力を合わせ、患者さんに喜ばれる美味しい食事を提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。

入院患者さんの食事は【病態に合わせた食種・個々に合わせた給与栄養量・機能に合わせた食事形態】で提供しています。その食事を全て摂取して栄養となりますが、入院している患者さんは病状や治療の副作用によっては食欲が低下する方も多くいらっしゃいます。管理栄養士は提供した後も患者さんがその食事を食べられているのか・いないのか、食べられない原因は何かを常に考え、対応しています。その中でも特に化学療法を行っている患者さんは食欲不振、味覚異常など様々な症状が出現します。少しでも食べられるように当院はがん患者さん向けの【ひだまり食】という食事を考案し提供しています。患者さんの嗜好に合わせ、A・B（又はC）と選択できるようなメニューにし食欲不振による苦痛を少しでも軽減できればと考えています。このように一人ひとり病状は違いますが、これからも患者さんに寄り添っていただける栄養士・管理栄養士を目指していきたくと思ひます。また、食事についてわからないことがある際はぜひ質問していただければと思ひます。

栄養管理部 藤崎 愛

ひだまり食 おしながき



栄養管理部・厨房スタッフ

新人紹介

新人さん
いらっしゃ〜い



7月〜12月までに
私達の仲間となったスタッフを
ご紹介いたします。
どうぞよろしくお祈りします



安村 拓人
外科
医師

平成29年7月1日より、永田先生の後任として赴任いたしました。平成26年に大分大学を卒業し、鹿児島大学病院、鹿児島医療センターにて初期研修を行い、平成28年に鹿児島大学心臓血管・消化器外科に入局しました。
薩摩川内市は研修医の時に下甕島手打診療所で1カ月間研修を行って以来であります。本土は初めての土地で、周囲の病院の名前を言われてもまだピンときません。
スタッフの皆様方はとても優しく、いつもさまざまな事を教えて頂いています。また、今まで経験した事のない疾患も多く、患者様からも多くのことを学ばせて頂いています。なだまだ未熟で、多くの皆様方にご迷惑をおかけしていますが、地域医療に少しでも貢献できるような努力したいと思いますので、どうぞよろしくお祈りいたします。



宮内 栄治
循環器内科
医師

平成29年7月より、下野先生の後任として当院循環器内科へ赴任いたしました。平成18年に鹿児島大学を卒業し、平成20年に鹿児島大学心臓血管・高血圧内科学に入局いたしました。鹿児島市立病院での勤務以降は、藤元総合病院、鹿屋医療センターと大隅地区で地域医療の拠点となる病院で、計5年の臨床経験を積み、晴れて(?)薩摩半島へ戻って参りました。自分は循環器診療の中でも専門領域としてカテーテルインターベンションを選びました。現在は冠動脈のみでなく、下肢動脈などの末梢動脈インターベンションにも積極的に取り組んでおります。川薩地区の虚血性心疾患の拠点として、当院にはカテーテルインターベンションが必要な患者さんが集まってきます。私としてはやる気みなぎっております。これまでの当科の先輩方が積み上げてきたものをさらに充実させ、患者さんのQOL・予後をよりよいものにできればと決意しております。

川内での勤務は初めてになりますが、一生懸命働いて、一生懸命川内の土地を満喫しようと思っています。勤務1年目の目標であった「川内花火大会に参加する」はさっそく達成できました。うちのチビたちも大はしゃぎ！来年も参加できればなあ〜と思っています。趣味は特段ありませんが、体を動かすことが好きです。このカトリエによく掲載されているスポーツ大会への参加の記事に触発されて、次なる目標は「川薩地区のスポーツ大会への参加」を勝手に掲げました。口べたで自分からは言い出しにくいので、是非ともお誘いいただければと思っております。まだまだ未熟な私ですが、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお祈りいたします。



上蘭 直弘
整形外科
医師

平成29年11月1日より、有馬大智先生の後任として赴任いたしました、上蘭直弘(うえそのなおひろ)と申します。こちらに赴任して早くも3ヶ月が過ぎようとしておりますが、毎日が忙しく消化不良の日々が続いております。早く電子カルテの操作や病院のシステムなどに慣れ、皆様にご迷惑をおかけしないように頑張りますのでどうぞ宜しくお願いします。

私は平成19年に鹿児島大学整形外科教室に入局し、鹿児島大学病院、県立大島病院などで臨床経験を積ませていただきました。整形外科専門医を取得後は、九州大学基礎幹細胞学(基礎系の教室)で脊髄損傷の再生医療に関する基礎研究に携わってまいりました。皆様もご存知のiPS細胞(人工多能性幹細胞)から神経系の細胞に分化できる幹細胞(神経幹細胞)を誘導し、それを脊髄損傷モデルマウス(第10胸髄レベルに人為的に損傷を起こして後肢を麻痺させたマウス)に移植することで、損傷脊髄の再構築を図るという研究テーマです。このテーマは世界中で研究されており、その有効性が証明されてきており、慶応大学整形外科が主体となつていよいよ臨床治験が始まろうとしています。移植細胞の腫瘍化の問題など安全性をさらに追求し、1日でも早く麻痺で困っている患者さんに希望の光が届けば、こんなに嬉しいことはありません。このように文面を書き連ねると、基礎研究の華やかな部分が目立ちますが、実際は地味な部分が大部分を占めます。日々は忍耐。無駄の大切さ。失敗を恐れないこと。ルーチンワークの大切さ。リサーチマインド。基礎研究で学んだことは計り知れませんが、これらのことを日々の臨床の現場に活かして、少しでも患者さんのお役に立てるように精進したいと考えています。

骨折などの外傷はもちろんですが、関節鏡を用いた肩関節や膝関節などの治療に興味があります。皆様のお知り合いで肩関節、膝関節痛でお困りの方がいらっしたら、ぜひご紹介ください。今後とも何卒よろしくお祈りいたします。



脇岡 澄
栄養管理部課長
管理栄養士

7月より栄養管理部に入職させて頂きました。管理栄養士の経験はありますが、まだまだ分からない事が多々あります。ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、頑張りますので、ご指導の程よろしくお祈りいたします。



赤間 由美
医療技術部
臨床検査技師

8月より臨床検査技師として働かせて頂くことになりました。まだまだ分からない事が多く、ご迷惑をおかけすると思いますが、1日でも早く仕事に慣れるように頑張りますので、ご指導の程よろしくお祈り致します。



堂前 康子
総務コンシェル課
医局秘書

8月より医局秘書として勤務させて頂いております。分からないことばかりでご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯頑張りますのでよろしくお祈り致します。



田中 律子
総務コンシェル課
事務職員

8月より総務課で勤務させて頂いたことになりました。一日でも早く仕事と環境に慣れるよう頑張りたいと思います。ご指導の程よろしくお祈り致します。



山本 羊子
看護部外来
看護師

Uターンで帰鹿し8月から外来で勤務させて頂いています。覚えるまで時間がかかるとは思いますが、頑張りたいと思いますので、宜しくお願いします。



中原 愛美
医師サポート室
医師事務作業補助

9月より医師事務作業補助者として、入職させて頂きました。慣れない事も多く、ご迷惑をおかけする事もあるかと思いますが、精一杯頑張りたいと思いますので、宜しくお願い致します。



原口 美貴
3階東病棟
クラーク

クラークとし働かせていただくことになりました。少しでも早く仕事に慣れ、がんばりたいと思います。ご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお祈りいたします。



野田 有希
総合リハビリテーション部
作業療法士

作業療法士として働かせていただくことになりました。知識・技術共に未熟で、ご迷惑をおかけすると思いますが、精一杯がんばりますので、よろしくお祈りいたします。



三枝 愛美
3階東病棟
看護師

12月より入職致しました。1日でも早く職場に慣れ、皆様のお役に立てる様に頑張ります。ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご指導よろしくお祈りいたします。



林山 絵梨香
総合リハビリテーション部
リハビリ助手

12月より入職致しました。分からない事ばかりですが、一生懸命頑張りますので、よろしくお祈り致します。



芳村 杏子
医事業務課
ドック健診業務

12月より入職致しました。分からないことばかりですが、少しでも早く業務を覚えらるよう一生懸命頑張りますので、ご指導よろしくお祈り致します。



花北 真李
総合リハビリテーション部
リハビリ助手

12月より入職致しました。笑顔を忘れず、病院の一スタッフとして周りとの連携を取り合い、的確に仕事をこなせるよう務めて参りたいと思います。御迷惑をおかけすると思いますが、御指導のほど宜しくお願い致します。

ふれあい看護体験



平成29年7月22日(土)、当院でふれあい看護体験が実施されました。今回は、伊集院高等学校の2年生女子2名の参加があり、看護師の役割や業務内容を間近で見学したり、患者さんとのコミュニケーションを通して、貴重な体験ができたようです。今回の体験で将来の夢である看護師という仕事に、一歩近づくことができました看護体験になったと思います。

七夕まつり



毎年恒例(第25回目)の七夕まつりと父母会主催の夕涼み会が7月1日(土)にありました。今年も天候が安定せず、やっと快晴になった!と思ったら、これはこれで暑かったです。昨年までは竹での流しそうめんがメインでしたが、今年はカレーライスとフルーツポンチがメイン。子ども達が楽しみにしている屋台もあり、ヨーヨー釣り・おもちゃ釣り・かき氷・ポップコーン・お面など色々。親子で夕涼みをしながら楽しいひと時を過ごしました。

NEWS

Sendai Medical
Association Hospital
July - December



今月のスマイル

職場体験



平成29年9月7日(木)より当院看護部にて職場体験が実施され、川内南中学校2年生3名の参加がありました。患者さんと看護師の笑顔に触れたり、病院について学べたことなど、貴重な体験ができた感想を述べていました。また将来、看護師や助産師になりたいという夢が一層強くなったと語る学生もいて、頼もしい限りでした。

職場体験



平成29年8月24日(木)より当院看護部にて職場体験が実施され、れいめい中学校2年生3名の参加がありました。患者さんとのコミュニケーションをはじめ、手指衛生の体験や入浴介助の見学など看護業務を通して、普段接することがない看護師のカッコ良さや看護業務に対して魅力を感じたと感想を述べていました。

清掃ボランティア



8月22日(火)17:05より毎月2回行われるサービス向上委員会主催清掃ボランティアを実施しました。今回は病院敷地内を中心に、街路樹の枝葉や資源ごみなど約20分かけて拾いました。病院周辺はもちろんのこと、普段気が付かない裏庭や緑地帯などもすっかり綺麗なり、職員全員によるこのような定期的な清掃の大切さを改めて感じました。

川内はんやまつり



11月5日(日)、「川内はんやまつり」に当院の踊り連も参加しました。はんやまつりは、「正調はんや節」と「川内よいとこ」のリズムに合わせ、多くの踊り連が国道3号線を踊り歩く伝統行事です。今年は天気にも恵まれ、約五千人の踊り連が参加し、祭りは大いに盛り上がりました。

感染対策研修会



10月から11月にかけて全職員に対して感染対策研修会を開催しました。今後のインフルエンザ流行時期に備えて、インフルエンザアウトブレイク事例のDVD聴講後、各自心掛けることや、感染防止対策などについて再確認しました。また当院は、新型インフルエンザなどの感染患者を受け入れる『2種感染症指定医療機関』でもあるため、患者対応時の個人防護具の着脱方法について、実技と見学を通して学びました。

第5回市民公開講座



10月7日(土)薩摩川内市国際交流センターにて、第5回市民公開講座を開催しました。今回は「笑顔と生活を支えるリハビリテーション」というテーマで、当院の総合リハビリテーション部の職員3名により講演を行い、相談コーナーと講演会場に市民の皆様をはじめ約120名の方が聴講されました。次回も、当院市民公開講座に多くのご参加をお待ちしております。

- 第1部「転ばぬ先のロコモ体操」
長嶺英博
- 第2部「先手必勝 認知症予防」
橋口久仁子
- 第3部「子育てにも使える言語聴覚士の3つのテクニック」
久保田空

ちゅうりっぷ園生活発表会



12月9日(土)薩摩川内市総合福祉会館にて、第25回ちゅうりっぷ園生活発表会が行われました。今回もステージでは、園児たちが毎日練習を重ねてきた歌や踊り、合奏や劇などが披露されました。会場の方々は園児たちの一生懸命な姿に感動し、今までより一層園児たちの成長を感じたことと思います。

クリスマスコンサート



12月19日(火)当院リハビリセンターにて毎年恒例のクリスマスコンサートを開催しました。院内保育所ちゅうりっぷ園の園児たちによる劇や永利小学校金管バンドの演奏、そして当院職員によるハンドベルが披露され、患者さんと来場の方々の大きな拍手に包まれていました。プログラムは以下の通りです。

- ①ちゅうりっぷ園
劇「ブレーメンの音楽隊」
- ②がん関連委員会メンバー
ハンドベル
- ③永利小学校金管バンド
スウィートキッズ演奏

職場体験



11月11日(金)、川内商工高校2年生男子1名、女子2名の職場体験がありました。患者さんとのコミュニケーションをはじめ、配膳や手浴の介助も体験し、笑顔で接する看護師の姿を見て「かっこいい」と感じたことや、患者さんからの「ありがとう」の言葉が嬉しかったと感想を述べていました。男子生徒は理学療法士、女子生徒2名は、看護師志願者ということで、専門学校への進学も視野に入れて今回参加していました。今回の体験を通し「将来の夢」の実現に向けて、よい機会になったようです。

第38回

身体に優しい健康レシピ



雪見鍋

エネルギー：143kcal、たんぱく質：14.2g、脂質：2.0g、食塩：1.3g



作り方

- ① 大根はすりおろし、その他の野菜は食べやすい大きさに切る。
- ② 鍋に調味料を混ぜ、白菜の芯・人参・しめじを入れて加熱する。
- ③ 白菜の色が少し透明になってきたら、白菜の葉・白葱を入れる。
- ④ 野菜に火が通ったら、たら・豚肉を入れて煮る。
- ⑤ 最後に大根おろしを盛る。

材料(1人分)

大根	1/5本
白菜	1枚
白葱	1/4本
人参	1/10本
しめじ	1/10パック
たら	1/2切れ
豚ももスライス	30g
○調味料	
出汁	300ml
醤油	大さじ1/2
酒	小さじ1
みりん	大さじ1/2

冬の食材

寒い冬はあたたかい鍋がおいしい季節ですね。味や具材のバリエーションが多く、いろいろな種類を楽しむことができます。市販の出汁も多く出回っており、1人用の出汁も販売されているので、より使いやすくなっています。また残りの出汁で麺類や雑炊を楽しむこともできます。

今回紹介するメニューは、大根をたっぷり使った雪見鍋です。大根おろしに火が通り半透明になった姿がみぞれに似ていることから、みぞれ鍋といわれることもあります。大根には消化を助けるアミラーゼをはじめ各種の消化酵素が豊富に含まれており、胃もたれや胸焼けによいといわれています。食物の消化を助けるとともに、腸の働きを整える効果もあるそうです。この酵素は熱に弱い性質があるので、鍋で食べる場合は大根おろしを最後に入れるのがポイントです。生の大根は辛みがあり苦手という場合は、鍋のつゆをかけて食べると食べやすくなります。

鍋は、野菜をはじめたくさんの食材を食べることができる、栄養補給として魅力的な料理です。地域によって特徴的なものもありますので、ぜひいろいろな鍋料理をお試しください。

栄養管理部 加藤 恵理

リレーエッセイ

「言葉の力」

4階西病棟
看護師

山元由美香

私は今年の6月から4階西病棟で働かせて頂いています。

入院される患者と日々看護援助を行うなか、「いつもありがとう。」「また宜しくね」とたくさんのお言葉をいただきます。自力でなかなか体が思うように動けない方も多いため、他人から援助を受けてもらうことに対して、患者は申し訳ないと感じている方もおり「ぜんぜんそんなことないですよ。いつでも言って下さいね」といつも言葉をかけます。すると患者はにこっと笑顔になります。

患者の言葉にとっても元気をいただいたりすることもあります。日々業務に追われる中、焦って行動してしまいう事も、そんななか患者様から「おはよう。山元さん今日もよろしく願います。」と声をかけていただいたりします。その一言だけでも、自分の気持ちにやる気が起きたり、嬉しい気持ちになります。患者の言葉だけでなく、患者家族、一緒に働いているスタッフとの日々の会話等から元気をいただいております。

言葉の力って素晴らしいなと看護師として働くようになって改めて感じました。皆さんもぜひ相手の言葉に耳を傾けて、自分がどのような気持ちになったか感じてみてください。